

IFKS 15th Anniversary

第2回クーラウ・フェスティバル 2015 in Tokyo

2015年10月11日(日) 開演：14：00 開場：13：30

Friedrich Kuhlau 戯曲『妖精の丘』

デンマーク秘蔵の戯曲、国外での初めての本格的公演

気をおつけ、妖精の娘に！

気をおつけ、妖精の王があなたを狙ってる！



フリードリヒ・クーラウ

演出・脚色：杉本 凌士

歌：松岡 美桔、Ema、西川 大貴

朗読：劇団男魂、土屋 咲登子、他

ナレーター：坪内 守

バレエ：谷桃子バレエ団

オーケストラ：東京ニューシティ管弦楽団

合唱：東京合唱協会

指揮：石原 利矩

第一生命ホール S席8,000円 A席7,000円 B席6,000円

(都営地下鉄 大江戸線「勝どき駅」A2a出口 徒歩8分)

主催：IFKS (インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会) 03-5770-5220

チケット取扱い：IFKS、チケットぴあ pia.jp/t 0570-02-9999 (Pコード 265-694)

CNプレイガイド www.cnplayguide.com 0570-08-9990、東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

楽天チケット <http://ticket.rakuten.co.jp/>、新演チケットサービス www.shin-en.jp 03-3561-5012

お問合せ・マネジメント：新演藝家協会 03-3561-5012

『妖精の丘』のこと

デンマークのステウンス地方には「妖精の王」の伝説があります。

妖精の王は地下の岩穴に住み彼の周りには美しい妖精の娘たちがかすずいています。王は闇の世界から人間を伺いながら、奪った財宝に埋もれ自らの世界を守っています。夜な夜な妖精の娘は丘にきて踊りを踊り、その踊りと歌声に魅せられた若者は魂を奪われて命を落とします。

ハイペア作、クーラウ作曲の戯曲『妖精の丘』は、この古くから伝わる民話の妖精の王と、史実のデンマーク国王クリスチャン4世を登場させ、王様が決めた結婚話によって相思相愛の二組の家臣のカップルに降り懸かる困惑とその意外な解決の物語。この戯曲は1828年11月6日コペンハーゲンの王立劇場で初演され、その後、デンマークの国民的な戯曲として熱狂的に愛好されてきました。ハイペアとクーラウの共同作業で完成されたこの戯曲は、オーケストラの序曲で始まり、独唱、重唱、合唱、バレエに親しみやすい北欧民謡のメロディーがふんだんに用いられ、劇場音楽作曲家としてのクーラウの卓越した技量を余すことなく伝えています。



ナレーター：坪内 守



カーン：松岡 美桔



エリーサベト：Ema



アグネーテ：土屋 咲登子



モーウンス：西川 大貴 (かららん)



クリスチャン四世：大塩 ゴウ



ヴァルケンドーフ：仲田 育史



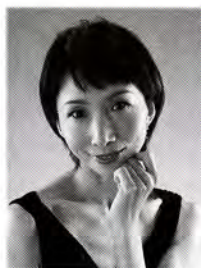
エッベセン：加藤 裕人



フレミング：森石 晃司



ルズ：山田 諭



振付：伊藤 範子
(谷桃子バレエ団)

1973年谷桃子バレエ団研究所入所。1985年英国ランバートバレエスクール留学。1986年帰国後、谷桃子バレエ団入団。1991年「白鳥の湖」

全幕で主役デビュー、プリンシパルとして活躍。1995年「村松賞」受賞。また、新国立劇場、二期会、藤原歌劇団のオペラ作品の振付も多く手がけ、labo opera 絨毯座「偽りのアレッキーノ」は《2008年サントリー-佐治敏三賞》を受賞する他、演出・振り付けをした「道化師〜バリアッチ〜」(谷桃子バレエ団)、「ホフマンの恋」で好評を博し、《2014年第46回舞踊批評家協会賞新人賞》を受賞する。



演出・脚色：杉本 凌士

劇団メンソウル代表。俳優・脚本家・演出家。熊本県人吉市出身。2003年、ほぼ全員が九州男児という異色の劇団「男魂(メンソウル)」を旗揚げ。座長であり看板俳優として毎回舞台に立つのはもちろん、現在はほぼ全作品の脚本・演出も手掛ける。外部作品としては、2010年に東京新国立中劇場にて、自身初となるミュージカル作品『絆』の脚本・挿入歌歌詞を担当。同年、六本木サントリー

ホールで開催された「クーラウ・フェスティバル2010 in tokyo」にて、J・ボイエ作の音楽劇『ウィリアム・シェイクスピア』の脚色・演出を果たし、161年ぶりの、世界初再演となる本作品を見事現代に甦らせた。2011年にはミュージカル『絆』が同じく新国立劇場で再演される。さらに、2013年5月には、上記『ウィリアム・シェイクスピア』が、名門「無名塾」にて、杉本の脚色・演出にてあらためて上演される運びとなり、こちらも大成功を納めた。2014年、「武本凌侍」として初監督した映画「カマトト」が全国で公開。「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2015」でも上映されるなど、映像監督としても高い評価を得る。その他、劇団新作の脚本・演出はもちろん、俳優としても、今後も多種多様な場での活躍を控えている。



指揮：石原 利矩

1864年国立音楽大学卒業。1966～68年ウーレン留学。1968年3月ウーレン国立音楽アカデミー卒業。1968年9月、東京でデビューリサイタルを開催。1964～1982年NHK交響楽団に在籍。1980～2005年、国立音楽大学でフルート科の教鞭を執る。フルーティス

トとして活躍を続ける傍らデンマークの作曲家、フリードリヒ・クーラウの研究を永年続け、日本においてクーラウの作品(知られざるオペラや戯曲を含む)を数多く紹介している。IFKS会長ゴム・ブスク氏との共編/クーラウ・ピアノソナタ曲集(全4巻)、ピアノ変奏曲集(全3巻)は世界初として内外の注目を集める。現在インターナショナル・フリードリヒ・クーラウ協会の理事長をつとめている。

～ インフォメーション ～

第2回クーラウ・フェスティバルは2日間に亘りそれぞれ別の会場で行われます。初日は本公演の前日(10/10)、銀座/王子ホールにおいて行われるクーラウ協会会員のコンサートです。海外の著名なゲストを迎え約100名の会員の出演者によるクーラウ作品を中心としたソロ、アンサンブル、大合奏などの華やかな演奏会です(入場無料/整理券制)。

12時開演、休憩16:00～17:00、終演21時。お問い合わせ：IFKS事務所